

台湾語の「ho⁷」, 「ka⁷」と中国語の 「把～給」, 「被～給」について

李麗秋

A Contrastive Study of “ho⁷, ka⁷” in Taiwanese and “bǎ ~ gěi”, “bèi ~ gěi” in Mandarin Chinese

LEE Li Chiu

1 はじめに

中国語において「給」は受身表現、働きの受け手を示す文に用いられる外に、「被」字句と「把」字句の中にもよく併用される。併用される「給」(被+O+給+V、把+O+給+V)に対して、中国語の語法関係の本は「強調」の役割であるとしが扱わないのが殆んどである。

台湾語においては、働きを掛ける側を示す場合にはho⁷を、働きを受ける側を示す場合にはka⁷を用いる。以下の例文で中国語訳と対照しながらその語意をみよう。

- (1) Theh⁸ bah⁴ ho⁷ kau² chiah⁸. (拿肉給狗吃。拿肉讓狗吃。)
- (2) Ma-ma cho³ saN¹ ho⁷ gun². (媽媽作衣服給我們。)
- (3) I¹ ho⁷ lang⁵ phah⁴. (他被入打。)
- (4) Jin⁷-chin¹ thak⁸-chu¹ ho⁷ pe⁷-bu² an¹-sim¹. (認真讀書讓父母安心。)
- (5) Li² ka⁷ pang⁵-keng¹ sau³ sau³ leh⁴. (你把房間打掃打掃。你給房間打掃打掃。)
- (6) Kau² ka⁷ bah⁴ chiah⁸ khi³. (狗把肉吃掉

了。)

- (7) Goa² ka⁷ peng⁵-iu² kha³ tian⁷-oa⁷. (我給朋友打電話。)
- (8) Lau⁷-su¹ ka⁷ a¹-hoe¹ ma⁷. (老師罵阿花。老師把阿花給罵了。*老師把阿花罵。)
- (9) Ka⁷ lan² e⁵ kiu⁵ tui⁷ ka¹-iu⁵. (爲我們的球隊加油。替我們的球隊加油。給我們的球隊加油。)
- (10) Li² ka⁷ goa² chau²! (你給我滾!)
- (11) Ka⁷ saN¹ chheng⁷ ho⁷ i¹ ho². (把衣服給穿好。)
- (12) Chhia¹ ho⁷ keng³-chhat⁸ ka⁷ thoa¹ chau² ah⁴. (車子被警察給拖走了。)

のように、台湾語の「ho⁷」字句は中国語における受益者を示す「給」、受動文の「被」、使役文の「讓」に、ka⁷は処置表現を示す「把」、「將」と動作がおよぶ標的を表す「為」、「替」、「給」などに当たる。そして、例文(11)と(12)の如く、台湾語には、中国語の「被」字句、「把」字句と併用される「給」と同じような機能を有するho⁷(本稿で併用文のho⁷と称する)とka⁷(本稿で併用文のka⁷と称する)がある。しかし、(11)と(12)を見ると、台湾語の併用文

「ho⁷」と併用文「ka⁷」は文中でこれら本来の文法的機能としての授受関係が依然として生きており、それぞれの役割が働いていることが窺えるのである。

本稿は、一般には「強調」の役目として扱われている中国語の「給」について、台湾語のho⁷、ka⁷との対照関係を分析しながら、従来の「強調」説に対して、「給」が受動、処置と言う動機を保持しつつ文の中で大切なわき役として働いていることを指摘する。

2 台湾語の「ho⁷」字句の種類

台湾語の「ho⁷」字句は、例(1)(2)(3)(4)のようにho⁷の後ろの名詞と動詞の授受関係によって、(一)方向性を標識する「ho⁷」字句、(二)「与える」意味を示す「ho⁷」字句、(三)使役表現の「ho⁷」字句、(四)受身表現の「ho⁷」字句の4類に分類できる。

2-1 方向性を標識する「ho⁷」字句

例(1) theh⁸(拿)のような動詞は「あげる、くれる」の意味を含んでいないため、「与える」意味を持つho⁷(給)と結んではじめて方向の標識機能が発生する。そのため、本稿では、この種類の「ho⁷」字句を「方向性を標識する「ho⁷」字句」と称する¹⁾。標識される対象はho⁷の直後に示される。(1)では、ho⁷の後ろの名詞kau²(狗)は動詞theh⁸(拿)がho⁷を通して標識される対象であると同時に、動詞chiah⁸(吃)の動作者でもある。bah⁴(肉)は動詞theh⁸(拿)の目的語で動作chiah⁸(吃)を受ける方である。だから、bah⁴(肉)は動詞theh⁸(拿)と動作chiah⁸(吃)の両方の目的語と言える。即ち、ho⁷の後ろの名詞kau²(狗)は動詞theh⁸(拿)の受益者でありながら、動詞chiah⁸(吃)の動作者である。bah⁴(肉)は(1)をbah⁴ theh⁸ ho⁷ kau² chiah⁸(肉拿給狗吃。)に直しても上記の関係は変わらない。しかし、*Theh⁸ ho⁷ kau² chiah⁸ bah⁴。

(拿給狗吃肉。)とはいわない。

方向標識を持たない動詞は、「与える」の意味を持つho⁷(給)の機能を介してはじめて動詞の働きを受け手に伝達する。そのような依頼関係のゆえに、動詞の目的語もho⁷(給)を介しなければ受け手にその目的を渡すことができない。したがって、Theh⁸ ho⁷ kau²(拿給狗)という言い方が成立する、Theh⁸ ho⁷ kau² chiah⁸(拿給狗吃)の場合²⁾、kau² chiah⁸(狗吃)はho⁷(給)の後ろにある語句の主述構造である。chiah⁸(吃)の動作者はkau²(狗)であるため、この語句も台湾語においては成り立つ。前述したように、動詞とho⁷(給)の間の依頼関係で、ho⁷(給)は常に動詞とその目的語の後ろにあって関係を維持する。bah⁴ theh⁸ ho⁷ kau² chiah⁸(肉拿給狗吃。)はbah⁴(肉)の場所が変わってもその依頼関係に変化は起こらない。

*Theh⁸ ho⁷ kau² chiah⁸ bah⁴. (*拿給狗吃肉。)

*Ho⁷ kau² theh⁸ bah⁴ chiah⁸. (*讓狗拿肉吃。)

のようなものは関係破壊による不適格文である。

2-2 「与える」意味を示す「ho⁷」字句

例(2)の例(1)と異なる点はho⁷の後ろに動詞を持たないことである。それによって、ho⁷が本来の「与える」機能を発揮する。授受関係として例(2)のho⁷直後の名詞は(1)と変わらない。ho⁷の後ろの名詞は主語ma-ma(媽媽)の働きの受け手で文の受益者である。「与える」意味を示すho⁷は動詞性が強いので(2)をMa-ma cho³ saN¹, ma-ma ho⁷ gun² saN¹. (媽媽作衣服、媽媽給我們衣服。)のように分析することができる。ここで、saN¹(衣服)はgun²(我們)とともに(2)-1のように「ho⁷」の賓語に用いられる。例文(2)-2は動詞cho³(作)の賓語としてのsaN¹(衣服)だけが移動されており、したがって成立しない。その理

由は、*Theh⁸ ho⁷ kau² chiah⁸ bah⁴. (*拿給狗吃肉。) と同じように理解できると思う。しかし、「的」をつけて saN¹ 「衣服」の (領属関係) を作る例 (2) - 3 なら可能である。

(2) 1 Ma-ma ho⁷ gun² saN¹. (媽媽給我們衣服。)

(2) 2 *Ma-ma cho³ ho⁷ gun² saN¹. (*媽媽作給我們衣服。)

(2) 3 Ma-ma cho³ ho⁷ gun² e⁵ saN¹. (媽媽作給我們的衣服。)

(2) 4 Ma-ma ho⁷ gun² cho³ saN¹. (媽媽讓我們作衣服。媽媽給我們作衣服。)

なお、例 (2) 4 のように語法が変化すると語義も変わる。 cho³ saN¹ (作衣服) を ho⁷ の後ろに移したら「 ho⁷ 」字句は使役表現になる。そしてまた主語と ho⁷ の後ろの名詞との間の授受関係にも変化が起きる。主語の ma-ma (媽媽) が動作者を喚起する主導者になり、 ho⁷ の後ろにある gun² (我們) が動詞 cho³ (作) の動作を果たす動作者である。

2 - 3 使役表現の「 ho⁷ 」字句

主語は文の主導者であっても動詞の動作者が ho⁷ の後ろの名詞にあると言うのが台湾語の「 ho⁷ 」字句の使役構造である。台湾語においては、「 ho⁷ 」字句のほかに kio³ を使う使役文 (例 (13)) も見られる。

(13) Kio³ gin²-a² ko³ chhu³. (叫小孩兒看家。)

(13) 1 Ho⁷ gin²-a² ko³ chhu³. (讓小孩兒看家。)

構文として「 kio³ 」の使役表現は「 ho⁷ 」と変わらないが、入れ替えることのできない場合もある。例えば、 kio³ の前にふつうは動詞を付けない (例 * (15))。 kio³ を用いた使役文には、語義として「示唆」,「頼む」,「命令」,「催促」などの要素が含まれているから、同じ使役文でも意味として微妙な違いがでてくる。例えば、例 (16) 及 (17) の場合、前者は「お医者さんが私に運動してほしい」と頼む意味であ

るのに対して、後者は「お医者さんが私に運動させる」の意味である。同じように、例 (13) と (13) 1 はともに「子供に留守番させる」であるが、 kio³ を使う例 (13) は単純な使役文の (13) 1 より口調の強い使役文となる。

(14) Goa² piaN³ ho⁷ li² khoaN³. (我拼給你看。)

(15) *Goa² piaN³ kio³ li² khoaN³. (我拼叫你看。)

(16) I¹-seng¹ kio³ goa² un⁷-tong⁷. (醫生要我運動。醫生叫我運動。)

(17) I¹-seng¹ ho⁷ goa² un⁷-tong⁷. (醫生讓我們運動。)

使役表現の「 ho⁷ 」字句においては、「 ho⁷ 」の前は使役を主導する部分であり、 ho⁷ の後ろは常に動作者と動作である。

2 - 4 受身表現の「 ho⁷ 」字句

台湾語の受動文は、主語が常に動作を受ける方で ho⁷ の直後の名詞が動作者である。しかし、 (19) は台湾語においては、受動文にならない。それは (18) の使役文中の動詞の賓語を ho⁷ の直前に移動した結果である。賓語 saN¹ (衣服) の場所が変わっても使役文の機能には影響を与えない。主語になった saN¹ (衣服) は li² (你) に働きをさせることができないから、 (19) の li² (你) が相変わらず動詞 soe² (洗) の実行者で、 saN¹ (衣服) が動詞 soe² (洗) の動作を受ける方である。中国語においては、主語、賓語の異動で授受関係が変わることは有り得ないのである³⁾。 (19) のような構文は台湾語においては (18) とは構文を異にする使役文である⁴⁾。

台湾語において受動文の主語は常に動作を受ける側である、 (20) はその典型的な例である。動作 long³ (撞) を受けるのは主語の I¹ e⁵ kha¹ (他的腿) である。 i¹ (他) は e⁵ (的) と結んで kha¹ (腿) の定語である。ところが、 (20) を (21) のように言い換えれば i¹ (他) は主語になり、動作を受ける側ではなくなる場

合もある。(21)では動作を受けるのは動詞 long³ tng⁷ (撞断)の賓語 kha¹ (腿)である。tng⁷ (断)は動詞 long³ (撞)の結果補語である。台湾語においては、「結果持ち、完了、事実になった出来事」の動作、状態にならない場合、受動文の述語にはなりがたい。そのため、動詞に ah⁴ (過去の時態を示す), khi³ (動作、状態が完了する事を表す), khi³ ah⁴ (動作、状態が完了する事を表す), tloh⁴ (動作が帰着したと言う感じを表す⁵⁾)などの結果補語を伴うのが一般的である。とは言うものの、動詞自体の意味機能がそのまま受動文に受け付けられると一般に認識されている ma⁷ (罵), phah⁴ (打), hoat⁸ (罰), chhong³-ti⁷ (捉弄, 欺負)などのいくつかの動詞は、補語を伴わなくても受動文のなかで十分な状態として扱われる。例えば、例(23)。それに対して、(23)の中国語訳のように、これらの動詞は中国語の受動文においては「了」などと一緒に用いられる。結果補語だけでは不十分なのである。よって(22)-1は台湾語でも中国語でも受動文として成立しない。

(18) [Hó⁷] li² soe² saN¹. (讓⁷你洗衣服。給⁷你洗衣服。)

(19) SaN¹ [ho⁷] li² soe². (衣服讓⁷你洗。衣服給⁷你洗。)

(20) I¹ e⁵ [kha⁷] chhia¹ long³ ten
(他的腿被⁷車撞斷了。他的腿叫⁷車撞斷了。他的腿讓⁷車撞斷了。他的腿給⁷車撞斷了。)

(20)-1 *I¹ e⁵ kha¹ [ho⁷] chhia¹ long³. (* 他的腿被車撞。)

(21) I¹ [ho⁷] chhia¹ long⁴ teng⁷ kha¹. (他被車撞斷了腿。)

(21)-1 *I¹ [ho⁷] chhia¹ long⁴ teng⁷ kha¹. (他被車撞斷了腿。)

(22) SaN¹ [ho⁷] li² soe² ho² ah⁴. (衣服被⁷你洗好了。衣服讓⁷你洗好了。衣服給⁷你洗好了。衣服叫⁷你洗好了。)

(22)-1 *SaN¹ [ho⁷] li² soe² ho². (* 衣服被⁷

你洗好。* 衣服讓⁷你洗好。* 衣服給⁷你洗好。)

(23) A¹-hoe¹ [ho⁷] lau⁷-su¹ ma⁷. (阿花被⁷老師罵了。阿花讓⁷老師罵了。阿花給⁷老師罵了。阿花叫⁷老師罵了。)

3 台湾語の「ka⁷」字句

台湾語において、「ka⁷」字句は前置詞として(一)受益者、(二)受動者、(三)方向標識を表す。

(5) Li² [ka⁷] pang⁵-keng¹ sau³ sau³ leh⁴. (你把⁷房間打掃打掃。你給⁷房間打掃打掃。)

(6) Kau² [ka⁷] bah⁴ chiah⁸ khi³. (狗把⁷肉吃掉了。)

(7) Goa² [ka⁷] peng⁵-iu² kha³ tian⁷-oa⁷. (我給⁷朋友打電話。)

(8) Lau⁷-su¹ [ka⁷] a¹-hoe¹ ma⁷. (老師罵阿花。老師把⁷阿花給⁷罵了。* 老師把阿花罵。)

(24) Goa² [ka⁷] i¹ sia² ji⁷. (我替⁷他寫字。我為⁷他寫字。)

(25) I¹ [ka⁷] kau² soe² sin¹-khu¹. (他為⁷狗洗澡。他給⁷狗洗澡。)

上記の例文(5)×(6)×(7)×(8)×(24)×(25)では、語義が違うにもかかわらず、それぞれの文の主語は動作者であり、ka⁷の後ろに現れる名詞は動作を受ける側になっている。この授受関係は「ho⁷」字句との対照関係になる。両者の関係によって「ka⁷」字句は次のように「ho⁷」字句に言い換えられる。

語義によって、「ka⁷」字句は「ho⁷」字句に変換されると受動文になったり使役文になったりするが、本来の授受関係に影響はない。しかし、(7)-1のようなものは本来の語義と同じとは言えない。

(5)-1 Pang⁵-keng¹ [ho⁷] Li² sau³ sau³ leh⁴.
(房間讓⁷你打掃一下。房間給⁷你打掃一下。)

(6)-1 Bah⁴ [ho⁷] kau² chiah⁸ khi³. (肉被⁷狗

吃掉了。肉^給狗吃掉了。肉^讓狗吃掉了。
了。)

(7)-1 ?Peng⁵iu² ho⁷ goa² kha³ tian⁷oe⁷.(?
朋友^讓我打電話。)

(8)-1 A¹hoe¹ ho⁷ lau⁷su¹ ma⁷. (阿花^被老
師罵了。阿花^給老師罵了。阿花^讓老
師罵了。)

(24)-1 I¹ ho⁷ goa² sia² jü⁷. (他^讓我寫字。)

(25)-1 Kau² ho⁷ i¹ soe² sin¹ khu¹. (狗^讓他
洗澡。狗^給他洗澡。)

4 台湾語のho⁷、ka⁷併用句

(11) Ka⁷ saN¹ chheng⁷ ho⁷ i¹ ho². (把衣服
給穿好。)

(12) Chhia¹ ho⁷ keng³chhat⁸ ka⁷ thoa¹ chau²
ah⁴. (車子被警察給拖走了。)

例文(11)と(12)のように、台湾語では、

ka⁷ ~ ~ ho⁷ ~ ~

ho⁷ ~ ~ ka⁷ ~ ~

のho⁷、ka⁷併用句が用いられる。(11)のsaN¹は処置の役目を持っているka⁷によって、chheng⁷(穿)の動作を経てho²(好)の状態に到達される。ho⁷は「ある目的の下に、その動作をして到達せしむべき結果、状態を示す」⁶⁾、と言うが。(11)の本来の姿は、

(11)-1 Ka⁷ saN¹ chheng⁷ ho². (把衣服穿
好。將衣服穿好。)

(11)-2 SaN¹ chheng⁷ ho⁷ i¹ ho². (衣服穿好)
のように、「ka⁷」字句と「ho⁷」字句で表せる。両者の違いは、(11)-1は処置文で、処置する目的を述べる。(11)-2は、ho⁷の後ろのi¹がsaN¹(服)の代名詞で、すなわち、saN¹(服)をchheng⁷(穿)の動作を受けてある結果、状態に置く、という傾向があるため、これを使役文の一つとして見てもいいだろう。

同じように、(12)は次の例のように受動文と処置文の併用句である。

(12)-1 Chhia¹ ho⁷ keng³chhat⁸ thoa¹ chau²
ah⁴. (車子被警察拖走了。)

(12)-2 Keng³chhat⁸ ka⁷ Chhia¹ thoa¹ chau²
ah⁴. (警察給車子拖走了。)

台湾語においてho⁷、ka⁷の後ろの名詞は、「ho⁷」字句、「ka⁷」字句の不可欠の要素である。(12)はka⁷の後ろに名詞Chhia¹(車)が省略されているように見えるが、台湾語では代名詞i¹(它)を省略してho⁷、ka⁷の本調を維持する形式を以って代名詞i¹(它)の代わりにすることがある。

その他、ho⁷は後ろのlang⁵(人)との縮約形式hong⁵(人)が用いられるし、ka⁷は後ろの第一人称goa³(我)と縮約形式ka⁵があり、lang⁵(人)との縮約形式kang⁵があつて、いづれもよく用いられる。例文(12)のka⁷はそのような縮約形式の現れた例である。

前述したように、(5)×(6)×(7)×(8)×(24)×(25)を「ho⁷」字句に変えても授受関係に変化は起きない。それはho⁷、ka⁷の後ろに付いている名詞がho⁷、ka⁷と分離しがたい関係にあるためである。そのため、語義同じで構文の異なる二つの形式が併用されて、それぞれの役割を生かしてさらに違う機能を生み出す。例えば、(11)-1と(11)-2を併用すると(11)の全体のポイントが処置の意味から使動の意味へとというプロセスでの気分的転換に繋がる⁶⁾。そして、(12)は受動式から処置式の結果に至る話者の心理を示すのである。

5 まとめ

中国語における「把～給」について王力氏は、「依北京語的習慣,如果處置式里的敘述詞係表示損害者,敘述詞前面還黏附著一個[給]字。這[給]字在語法上沒有甚麼意義,只當它加重語意的就是了。」⁷⁾と述べた。台湾語においては、ho⁷、ka⁷と後ろの名詞との間の強い絆によって、ho⁷、ka⁷併用句はho⁷、ka⁷それぞれの役割を生かして言葉の「強調」の意味を超えて機能的に働いているのであるが、それに対して、中国語の「把～給」、「被～給」字句は果たして「意義」を持たない「強

調」の形式に過ぎないのであろうか。

中国語の「把～給」、「被～給」字句の重要性について佐々木(1996)は「動詞句直前の‘給’を抽象的な方向性を表す成分」と指摘している。

本稿は中国語の‘給’について、上記した台湾語のho⁷、ka⁷字句の対応する中国語訳によって考察した。‘給’はむしろ、後ろの名詞とのあまり緊密ではない関係を利点として利用して、使動 受動の間を往来して、「把」、「被」と連結して「使動、受動、与える」などの‘給’の役目を生かす形式であると考え。その機能は台湾語のho⁷、ka⁷併用句に類似するものであることを指摘しておきたい。

【注 釈】

- 1) 朱德熙(1999)はこの場合の「給」を動詞として扱っており、「之前的動詞可以是包含給予意義的動詞,也可以是不包含給予意義的動詞」として、動詞の性質によって「送一本書/給他」、「送給他/一件毛衣」とは言えるが、「織了一件毛衣/給他」を「*織給他一件毛衣」とは言えないと言う。ただし、その理由は説明されていない。
- 2) 朱(1999)は1)の性質を持っている動詞の後ろに「都能再加上動詞或動詞性結構造成複雜的連謂結構」と述べている。
- 3) 朱德熙(1999)P127「主語不一定是施事,實語也不一定是受事,不能把主語和實語的區分理解為施事和受事的對立.如果憑施受關係確定主實語,這種說法顯然是不合理的。」
- 4) 李獻璋(1950)はLau² tiuN¹ boe² mng⁷ tiau⁵ bak⁸ ho⁷ goa². (老張買兩條墨給我。)の語に動詞boe²があるから、本来動詞であるho⁷がこの場合は介詞になる、と言う。
- 5) tioh⁴の説明は現代閩南語辭典(昭和56年)に

よる。

- 6) 李(1950)『「與」はある目的の下に、その動作をして到達せしむべき結果、状態を示す』『この使動的な意味を含んでいるがゆえに、祈りや祝福などの言葉に用いられる。』p325を参照
- 7) 中國現代語法(下冊)p165参照

参考文献

- 1950 李獻璋 福建語法序説 南風書局
 1959 王力 中国現代語法(上下) 中華書局
 1980 李臨定 被字句 中国語文6
 1981 村上嘉英 現代閩南語字典 天理大学おやさと研究所
 1984 内藤正子 「給+V」構文に関する一考察 中国語学231
 1984 Y.C.Li, L. Cheng et al. Robert Mandarin Chinese: A practical reference Grammar for Students and Teachers (Vol.1,2) 文鶴出版社
 1987 橋本萬太郎 漢語被動式的歴史・区域發展 中国語文196
 1993 盧濤 「給」の機能語化について 中国語学240
 1995 周長楫 廈門話介詞「互」、「共」及其相關句式 中国語文研究11
 1995 鄭蔡、曹達甫 閩南語「ka」用法之間的關係 台湾閩南語論文集1
 1996 木村裕章 把字句と目的語前置文の比較分析 中国語学243
 1996 佐々木勲人 「被・・・給」と「把・・・給」強調の「給」再考 中国語学243
 1996 邢福義 漢語語法學 東北師範大学出版社
 1999 朱德熙 朱德熙文集1 商務印書館
 2000 呂叔湘 現代漢語八百詞(增訂本) 商務印書館